

良質で高イソフラボン含有の大豆新奨励品種 「東北126号」の特性

福島県農業試験場 種芸部・会津支場・相馬支場
平成8年度～13年度大豆奨励品種決定調査成績書
分類コード 02-05-01152400

部門名 普通畑作物—大豆—品種—栽植様式・栽植密度—収穫・乾燥・調整
担当者 丹治克男、二瓶直登、渡部隆、斎藤正明、大谷裕行、斎藤弘文

I 新技術の解説

1 要旨

「東北126号」は、「スズユタカ」と比較した場合、次のような特性を持つ(表1)。

- (1) 開花期は2～4日早く、成熟期は1～4日遅い中生種である。
- (2) ダイズモザイクウイルスのA, B, C, Dの各系統に抵抗性を持ち、ダイズシストセンチュウ抵抗性・立枯病抵抗性・紫斑病抵抗性はいずれも「強」で、耐病虫性が強い。
- (3) 耐倒伏性は「スズユタカ」に優る「強」である。
- (4) 子実収量は標準播・晩播とも「スズユタカ」に優る。百粒重は「スズユタカ」よりやや大きい「中の大」、粒色は「黄白」、粒型は「楕円体」である。
- (5) 中通りおよび会津では、標準播でやや密植・晩播では密植で安定収量が得られ、浜通りでは「スズユタカ」と同様の栽植密度が適する(図1)。
- (6) 子実及び豆乳のイソフラボン含量は「スズユタカ」の約1.5倍と高い。(表2)
- (7) 豆腐加工適性および豆腐の物理性・官能評価は「スズユタカ」並から優る。

2 期待される効果

- (1) 本県産大豆の品質および収量性の向上が図られる。
- (2) イソフラボン含量が高く、機能性食品開発の素材としての活用も期待できる。

3 適用範囲

熟期は「中生」であり、普及対象地帯は県内の標高500m以下の地帯である。

4 普及上の留意点

最下着英位置は「スズユタカ」並でやや低く、茎水分の低下は「スズユタカ」より緩慢であるので、汚粒防止のため、機械収穫の刈取り適期判断及びコンバイン収穫の刈高さに注意を要する。

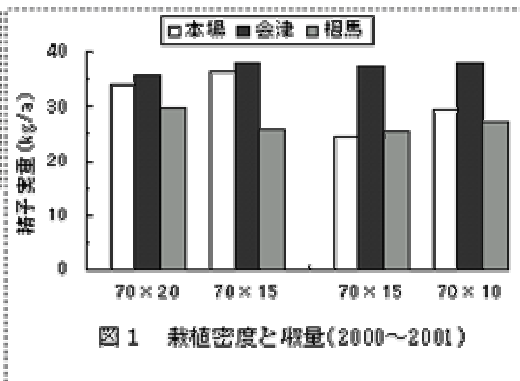
II 具体的データ等

表1 栽培特性

品種名	だいず「東北1 2 6号」		組合せ	東北9 6号／デワムスメ	
特性	長所 1 良質・多収 2 イソフラボン含量が高い			短所 1 最下着莢位置が低い 2 成熟期が「スズエタカ」よりやや遅い	
	採用県と普及見込み面積			福島県 1,000ha	
調 査 地	福島県農業試験場 (郡山市)		福島県農業試験場 会津支場 (会津坂下町)	福島県農業試験場 相馬支場 (相馬市)	
系統名・品種名	東北1 2 6号 スズエタカ		東北1 2 6号 スズエタカ	東北1 2 6号 スズエタカ	
早晩性	中	中	中	中	中
開花期 (月日)	7.28	7.28	7.22	7.25	7.27 7.29
成熟期 (月日)	10.14	10.10	10.15	10.12	10.08 10.08
主茎長 (cm)	61	70	78	84	62 71
主茎節数 (節)	14.7	16.4	15.8	17.6	14.2 15.6
分枝数 (本)	4.9	5.0	5.7	6.6	4.4 4.8
稔実莢数 (莢/本)	64.5	70.2	62.5	63.5	46.7 51.8
生育中の 障害	倒伏	微	少	微	少
	蔓化	無	無	無	無
	ウイルス	無	無	無	無
子実重 (kg/a)	38.0	27.8	38.6	37.2	27.7 28.4
収量比率 (%)	118	100	104	100	97 100
百粒重 (g)	30.5	27.0	27.8	27.0	23.9 22.4
障害粒程 度 (%)	紫斑粒	2.0	2.1	6.5	3.9
	褐斑粒	0.0	0.0	0.1	0.0
	裂皮粒	1.0	6.2	0.9	9.1
外観品質	上の中	上の中	上の中	上の中	上の中 上の中
試験年次	平成8年～1 3年		平成9年～1 3年	平成9年～1 3年	

表2 蛋白質及びイソフラボン含量 (2000)

品種系統名	蛋白質 (%)	イソフラボン含量(mg)	
		/子実100g	/豆乳100ml
東北126号	41.18	436.37	60.05
スズエタカ	42.42	289.85	40.68
タチナガハ	42.67	232.54	-



Ⅲ その他

1 執筆者

丹治克男、佐藤 誠

2 その他の資料等

平成13年度東北農業研究成果情報